

# 文化の仲間

京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間 会報 No.77 2017年2月5日発行  
川崎市幸区古市場 2-109 京浜協同劇団内 TEL 044-511-4951 郵便振替 00250-3-18369

新しい年にあたって

## 多くの方と共に歩める「文化の仲間」でありたい

文化の仲間・代表世話人 二村 柊子

### 「お正月お楽しみ会」を 開催しました

新しい年が巡ってきました。

私たち“文化の仲間”はここ数年、年明け最初の催物となっている「お正月お楽しみ会」(1月15日)に取り組みました。この会も10回となりましたが、今回は出演者・出し物が決まるのに時間がかかり、お客様は(?)と心配しましたが、何とか50人ほど。ご常連となられた方の顔もありホッとしました。



劇団玄関に掲げられた護柔さん作の看板



例年のように城谷さんとゴローちゃんの司会



この地域ではゴローちゃんはおなじみの人気者

人気者のゴローちゃんをはじめ、子ども腹話術のお2人・獅子舞・紙芝居そして元劇団員の加藤泰宏さんの落語も登場、頭も体も柔らかくなった気がしてきました。また、二人羽織・大型輪投げといった、観るだけではなく直接参加するプログラムにいたっては大盛況。子どもを右腕に抱え左手で輪を投げるといってお母さんの姿もあり、みんな夢中で楽しんだ2時間だったと思いました。

“お楽しみ会”終了後、劇団との新年会を開きました。机の上には美酒が並べられましたが——今年<sup>トリ</sup>は酉年、サンズイとは相性もよさそうですが——あの頃と



昨年引き続き獅子舞も登場



は違い、栓が開けられないままのものもあったようです。どうか皆様お元気で、心身ともに健康でと願わずにはられない今日この頃です。

## どうすれば多くの方々に参加していただけるのか

発足 20 年を経た“文化の仲間”今年も「旬を楽しむ夕べ」「平和の企画」劇団公演の協力など、様々な行動に取り組む予定ですが、どうすれば、もっと多数の方々に参加していただけるのか——誰でもどうぞ！

と言うだけではなく——世話人会も本腰を入れて考えていかねばならないと思っています。皆様、ぜひお力を!!

日本列島は豪雪に見舞われ、厳しい寒さも続いています。この「冬の時代」京浜協同劇団をはじめ、より多くの方々と共に歩みを進める「文化の仲間」でありたいと思っています。本年もどうぞよろしくお願いたします。

2017 年 1 月



京浜協同劇団第 90 回公演

# 「めくらぶんど」と「嬰兒殺し」の二本立て

観劇された方と出演された方に感想を寄せていただきました。

「めくらぶんど」「嬰兒殺し」

## 50 年前、100 年前の話だが

塩田 儀夫

昔の映画館の 2 本立て興行みたいな、刺激的なタイトル（でも単純明快でいい）の 2 本立て公演である。2 本立てのおかげで、休憩時間で黙々と進められる舞台セットの転換シーンが、それ自体「絵」になっていて面白かった。熱演した若い役者の皆さんの役作りの難しさも並大抵ではなかろう。何せ「めくらぶんど」は 50 年前、「嬰兒殺し」は 100 年前の話だものね。でもいい経験になったのではないだろうか。



終わり方も芝居ならではかも知れない。

「めくらぶんど」

天皇の赤子として戦地に連れ去り、戦死すると「小石ひとつ」をそれぞれの家庭に「個人」として送り返す。婆さまはそこが納得いかないのである。せがれが「この世」から消えたことを受け入れられずにこの世をさ迷っている。戦争のひどさを表すこの設定がいい。だって幽霊になっても、戦死したせがれを思い続けるなんて悲惨の最たるものだろう。

雪の重みで屋根がきしむ音（ギシ、ギシ）と、戦地から出したせがれのハガキが効果的に使われていて、この芝居の最後を秀逸にしている。雪に押しつぶされた爺さまは哀れだども、この終わり方がとてもいい。観終わって、婆さまが爺さまを迎えに来たんだなと当初は思ったが、違うのではないかと思ひ直す。爺さまと話し合った婆さまは、せがれが本当に「戦死した」ことを認めた。だから、大切に大切にしていたハガキを「もういらねえ」と爺さまに預けたのだろうと。だから、せがれが帰る家を残しておく必要がなくなったから潰したのだろうと。雪深い農村のユーモラスで哀しいお話であるけれど、国家の末端の酒役人の登場がいいスパイスの芝居といえる。

国家の末端としての役割は、前述の「嬰兒殺し」の巡査と同じだが、こちらの末端はしょうもない「小役人」として描かれているのも対照的で面白かった。

（文化の仲間会員）



「めくらぶんど」の舞台（写真©長坂クニヒロ 以下同）

「嬰兒殺し」

となりの女房、酒屋の小僧、くず屋がそれぞれワンシーンずつ出てくるのも、多過ぎず少な過ぎず良い配分だと思ふ。彼らと巡査の娘との会話の中で、当時の世相が浮き出るようになっていく。

2 回泣きました。でもその涙の質が違っていった。貧しさの極みの女土工が、巡査に自分の罪を見逃してもらおうと手土産を持ってくる場面です。行方不明の犬の賞金に 500 円を出すという、すつとこどっこの金持ちがいるこの世の中で、日給 1 円 20 銭の稼ぎから手土産代を出すのは並大抵ではなかろうとの「哀れみ」から。2 回目は、彼女が本署に連行される時、その日稼いだ給金を「家に届けて」と巡査に頼む場面。巡査にしても自分の妻と子を貧しさゆえに死なせてしまった、いわば同じ陣地に立つ者同士の「連帯」が生まれたと感じられる場面だから。それに続く巡査と女土工の道行？は本当は花道の上で演るんだろうな、と劇団には珍しい新派調エンディングもいい。

縄を打たない巡査は、もしかして途中で彼女を逃がすつもりかな？と、観ている者がそう願うような、でもそうはならないんだろうなあと自分の心が葛藤する



嬰兒ごろし つぎを演じて

# 素敵な役に出会えたのは奇跡

広山 鈴子

学業と生活費を稼ぎながら芝居で食べていくために大阪で様々な舞台、ショーに出演しましたがプロとして生きる厳しさ、孤独に打ちのめされ心身疲れた私には到底無理だと諦めたのが約3年前。不思議な縁で出演させて頂いた舞台ですがどうしてつぎという役が私にと配役されたかを思うと、つぎと私は似たところがあったのかもしれないと今になって思います。



「嬰兒殺し」の舞台 (写真©長坂クニヒロ 以下同)

大正時代の巡査の娘つぎは貧困による病で母と弟を亡くし、お金さえあればと嘆く父を励ます。励ましながら自分自身も喪失感、世の不条理を味わい、それでも明るく振舞おうとするけれども仮面が剥げてしまう瞬間がある。世の中にはどうにもならないことがあり、個人の力ではどうすることもできないのだと自分に言い聞かせる毎日。そんな中で突然自分よりも遥かに深い絶望、喪失感、世の中の辛苦を味わっている「あさ」に出会うことで、つぎは諦めるのではなく現実と向き合い何かしなければならぬと覚悟を得たのではないか。私はこの舞台を通してそんな風を感じています。

私自身芝居をやりたい気持ちもありながら、「仕事をしながらできない。」「家族がいる。」と理由をつけてそれを隠し。あさは嬰兒を殺しましたが、私は芝居に対する自分の気持ちを殺していたのではないか。現実諦めつつ、「お金があったなら!」「芝居ができる環境と時間があったなら!」といった願望を抱きつつ毎日を送っていた時に京浜協同劇団の皆さんとお会い



することになったのです。

私の中であさだったのは京浜協同劇団の皆さんでした。どこにでもある住宅街の中に佇む稽古場、昼は会社員として汗水流しながら働き、夜は芝居に励む姿。決して芝居に手を抜くことはなくアマチュアやプロ関係なく、「とにかくお客さんに良い舞台を見せたい!」という気持ちがそこにいるだけで伝わるのです。これぞカルチャーショック。私は本当に狭い世界でしか芝居をしていなかったのだと思い知りました。それと同時にあれだけ芝居と食べていくという両立ができず、苦しんだ過去の自分にこの劇団の存在をもっと早くに知っていれば…、あそこまで苦しむ必要はなかったのだと、過去の自分に教えてあげたいほどです。

大阪でショーや舞台を合わせて100公演以上出演



等しましたが、自分とかけ離れていると思った役が終わる頃には今の私にこの役だったのだと思えた役は今回が初めてです。本当にこんな素敵な役に出会えたのは奇跡で、機会を恵んでくださった劇団関係者の方々には感謝しかありません。「文化は常に大衆とともにあり」この言葉を体現している劇団、それが京浜協同劇団だと思います。みなさんの今後のご活躍が楽しみでなりません。

最後に文化の仲間の皆様から私の声を褒めていただき、たいへん嬉しく思っております。大阪時代のショーでは昭和の名曲(買い物ブギ、若いってすばらしい等々)を中心に歌っていましたので、また機会がございましたら皆さんに披露できればこれほど私にとって幸せなことはありません。長くなりましたが拙い文をここまでお読みいただきありがとうございます。

(協力出演者・本名：下村梨紗)



カーテンコール

川崎郷土・市民劇

# 住民の苦勞のおかげで開通

南武線誕生の秘話を劇化

京浜協同劇団 城谷 護

京浜協同劇団が総力を上げて取り組む川崎郷土・市民劇の第六弾は、「南武線誕生物語」に決まり、すでに1月から稽古が始まっています。地元川崎の青少年演劇作家、小川信夫氏の作品で、演出は青年劇場の板倉哲氏です。5月13日から多摩市民館で2日間、同19日から3日間、エポックなかはらでそれぞれ上演されます。

この劇は、川崎の大動脈ともいわれる南武線の誕生秘話を描いたもので、2人の男の夢と葛藤が見ものです。

一人は御幸村<sup>みゆきむら</sup>村会議員を経て橘樹郡<sup>たちばなぐん</sup>議員として活躍した秋元喜四郎。多摩川に堤防を築いてほしいと立ち上がった村民600人の「アミガサ事件」のリーダーでもありました。もう1人は、ガス、セメント、造船、運河と広大な埋め立て事業を行なった浅野財閥の浅野総一郎。

全く違う立場の2人が日本の近代化のうねりの中で展開する壮大なロマンを盛った人間ドラマです。しか

し、この劇は、単に2人の男の物語に終わらず、開通に至るまでの住民の苦悩と苦勞をも描いています。アミガサ事件に関わった民衆のエネルギーも見逃せません。

南武線は昭和2年(1927年)、「南武鉄道」として開通しました。今年はそれから90周年に当たります。それだけに市民の期待も膨らみます。

この市民劇は12年前から2年に1回行われているもので、これまで5本の作品が上演され、毎回3千数百人の観客を集めており、レベルの高い舞台として好評を博しています。裏方はプロのスタッフが固め、出演者はプロ、アマの市民です。京浜協同劇団は、その中心劇団として活躍、今回も総力を上げて取り組みます。京浜協同劇団の稽古場は早くも総勢40余人の出演者の熱気に包まれています。

今回も見応えのある舞台となるでしょう。どうぞご期待下さい。

川崎郷土・市民劇 第6弾

作・小川信夫 演出・板倉哲(青年劇場) 制作・関昭三

## 南武線誕生物語

—夢みる男たち—

日程 2017年5月13日(土)～21日(日)(開演時刻・会場は右の表を参照)

会場 多摩市民館／エポックなかはら

前売券 自由席2,900円 指定席3,600円 学生・障がい者1,000円 当日券は各300円増

問合せ・申込先 上演実行委員会

〒210-0007 川崎市川崎区駅前本町12-1 3F

(公財)川崎文化財団

TEL/FAX 044-222-8878

メール k.shimingeki@gmail.com

川崎の大動脈南武線は昭和2年「南武鉄道」として開通。その誕生の陰に秘められた2人の男の夢と葛藤の物語。

5月	13(土)	14(日)	19(金)	20(土)	21(日)
会場	多摩市民館		エポックなかはら		
午後1時半	○	○	△	○	○
午後6時半	△	△	○	△	△

# 「戦後 70 年を機に、自分史を振り返る」・最終章

——「戦後 70 年」と書いたが、1980 年、「戦後 35 年」くらいで、今回の年表は終わることになりそうだ——

小田 健也

しかし最後に、この原稿をまとめるキッカケを作ってくれた、京浜協同劇団について、私の演出記録として書いておこう。

○「京浜協同劇団」から初めて演出を頼まれたのは、ブレヒトの大作「コーカサスの白墨の輪」といっていいだろう。昭和 50 年（1975 年）のことである。（それ以前も小品があるが、それは省略する）ブレヒトの「コーカサスの白墨の輪」は、やはり京浜で上演した「母（おふくろ）」とともに、ブレヒトの大作であり、ブレヒトの演出をするうえで、貴重な仕事となった。

ではここで、「コーカサスの白墨の輪」について簡単に述べておこう。

★「戦国時代のグルシニアで謀反が起き、領主は殺され、夫人はわが子ミヘルを置き去りにして逃げた。女中のグルシェがミヘルを連れ、北の山国に逃げる。反乱が鎮圧されると、領主夫人は都にもどり、ミヘルを返すようにグルシェに迫る。2 人は法廷で争うことになるが、なんとその裁判で裁判官になったのが、ふとしたことから、にわか裁判官になってしまったアツダクという飲兵衛である。アツダクはチョークで地面に輪を描かせ、ミヘルをその中に立たせて、2 人の母親に手を引っぱるように命じる。」

——日本にも似たような芝居がある。「大岡裁き」と云われる有名な「お裁き」の芝居がある。ただ「大岡裁き」とこの「コーカサスの白墨の輪」が違うのは、日本では産みの親が、引っぱられて痛がる子どもの手を離し、子どもは産みの親に引き渡されるが、「コーカサス」では手を離れた女中のグルシェに子ども・ミヘルを渡す判決を下すのである。ここに愛情や倫理の相違があって、面白い——。

とにかく我々自身がびっくりするような好評で、再演、再々演と公演が続いたのは、演出者としてとても嬉しいことだった。いい芝居だった。

○京浜協同劇団での、もう一つの記憶に残る芝居は「金冠のイエス」

1976 年『朝日ジャーナル』掲載の作者・金芝河は、当時の朴韓国大統領に拘束されていた詩人であり、クリスチャンである。翻訳は辛英尚氏で（ここで不思議な偶然なのだが、翻訳者の辛英尚さんが中沢研郎さんと早稲田時代の同級生であった）、作品の副題に「ソウル三文オペラ」とあるように、歌が多く書かれてい

る。大変な量の作曲を引き受けてくれたのは、京浜ではお馴染みの安達元彦さん。

★さてこの芝居は、韓国のある地方都市で、2 人の浮浪者が空きっ腹を抱えながら、この社会の不条理を歎いている場から始まる。その 1 人は熱心なクリスチャン。街中に立っているセメントのキリスト像に今の苦衷を訴えるが、イエス像は何も答えてくれない。最後にその像に悪態をつきながらも、イエスにすがりつく。その時奇蹟が起こる……。舞台は 20 数名の合唱隊が出演している。内容も舞台形式も大変画期的なもので、再演、再々演と評判を得た。この時の浮浪者を演じたのが山口あきお、護柔一の 2 人、記憶に残る公演であった。しかし山口君（山ちゃん）がいないのは、口惜しい。

この時合唱隊で出演してくれたコーラスシアターの面々、いまでもお付き合いがある。そのお 1 人が、この原稿を依頼し、編集に当たっている二村柊子さんである。

○そして芝居の魅力は、役者の魅力。

「京浜」の「コーカサス」は大変に好評だった。再演、再々演されて、画期的な公演となったが、その好評の大きな力になったのは主役のアツダクを演じた「京浜」の中沢研郎さんという役者だった。彼は決して器用な役者ではないが、魅力的なキャラクターを持っていた。飲兵衛なところなどは、まさにアツダクだが、どこか“ちゃらんぼらん”のように見えて、そのくせ実直で、ストイックな面を見せるところも。この中沢氏は、まさにアツダクそのものであった。公演後に聞いた話だが、飲兵衛の彼が、稽古中一滴の酒も口にせず、役作りに集中したと聞いたが、まさにアツダク、いや、中沢氏の実直な人柄が表れていて、演出者の私のほうが、芝居作りの厳しさを教えられたような気がしたものだ。



1980 年（写真：©長坂クニヒロ）

またプレヒトの「母」の舞台では、その「おふくろ」を演じた室野定子さんも、その人柄という点で、まさに現実の彼女と舞台の母の役がくっ付いていて、アツダクを演じた中沢氏同様、ある種の日常を引っ提げて舞台に現れた女優の1人であった。この辺に、“**業余劇団の持つ強さ**”があったのではなからうか。

この京浜の公演以前に、「劇団俳優座」もこの「母」を公演していたのだが、その時の演出家・千田是也さんが、彼女の「母」を観て「うん、うちのおふくろより面白い」と、ひと言ぼつりとおっしゃったのを、今でも嬉しく覚えている。

もう一つの「金冠のイエス」も〈役者の魅力〉が大いに舞台を盛り上げたことは間違いないことだった。

#### ○芝居は時代と共に

芝居は、その時代、時代を写しているものらしい。この原稿を書きながら、つくづくそんなことを考えさせられた。「現代演劇は何をするものぞ？」と自問するが、なかなか答えるのが難しい。私が京浜協同劇団の芝居を観に行くのも、いつもその点で、私に示唆を与えてくれるのではないかと心弾ませながら出かけて行くのだ。黒さんや中沢研ちゃんや原科清ちゃんとの付き合いも、どこかそれを求めていたような気がする。今後もそうでありたいと願っているのだが……。それに時代は、私にいろいろな疑念を起こさせる。「安保法案に危機感」、「戦後70年・戦える国に」などと聞くと、ふと、昔聞いた「一億一心」とか「忠君愛国」と云った標語を思い起こさせる。思い過ごしでなければよいが……。

——これ以下は、年表で——

昭和50（1975）年 團伊玖磨作曲・小田健也演出、新作オペラ「ちゃんちき」東京文化会館初演。京浜公演、プレヒト「コーカサスの白墨の輪」初演。

昭和51（1976）年 京浜協同劇団でプレヒト「コーカサスの白墨の輪」再演。金芝河作・辛英尚訳・小田脚本・安達作曲「金冠のイエス」初演、

昭和54年、オペラ「夕鶴」を、中国の北京、天津、上海の三都市で公演。

昭和55年、京浜協同劇団、プレヒト「母」公演。

昭和57年、オペラ「夕鶴」ニューヨーク公演 ★劇団うりんこ「ブダ」公演。

昭和60年、オペラ「夕鶴」ロスアンジェルス公演。オペラ「秩父晩鐘」埼玉初演。

昭和61年、劇団うりんこ、小田作、演出「じゅごんの子守唄」初演。

昭和64年＝平成元年、劇団うりんこ、「夢見のちゃ

ら平」初演、小田脚本、演出。10月、オペラ「ちゃんちき」東欧公演。11月、ベルリンの壁崩壊。平成3年、（1991）国連軍、イラク空爆。湾岸戦争始まる。小田構成・演出、朗読劇「りゅうりえんれんの物語」初日。

平成4年、6月、劇団うりんこ、小田健也作・演出「田の久笑い旅」。

小田健也戯曲三部作「夢・うそ・芝居」上梓（劇団うりんこ出版）

平成7年、（1995）1月17日、阪神大震災。

佐賀県民オペラ、小田作・演出「赤絵まんだら」佐賀、武雄公演。

平成9年、京浜協同劇団で「東り演」講演。

平成10年、京浜協同劇団、プレヒト「コーカサスの白墨の輪」再演。

平成12年、（2000）茨木のり子朗読会、「詩と歌と、茨木のり子の世界」。

平成14年、（2002）、11月、オペラ「ちゃんちき」北京公演。

平成15年、ユー企画、8、9月「反戦朗読会」。

平成16年、4月、名古屋オペラ協会公演、小田健也作、池辺晋一郎作曲、オペラ「じゅごんの子守唄」初演。

平成17年、（2005）ユー企画「魔女の子守唄」。ネパール、ブータン公演。5月、ユー企画、「詩と歌で平和を希った人たち」横須賀公演。

平成18年、2月「詩と歌で平和を希った人たち」の名古屋公演。茨木のり子追悼企画「時代と詩と・茨木のり子の世界」川崎プラザソル。

平成19年、鶴岡追悼公演「茨木のり子の世界」8月、「東り演総会の講演」。

平成23年、（2011）3月11日、東日本大震災、12月、泉鏡花原作、小田脚本・演出、池辺晋一郎作曲、オペラ「高野聖」。金沢、高岡で初演。

平成24年、（2012）1月21、22日、オペラ「高野聖」新国立劇場公演。

（以下・略。——2015年11月20日記）



◎文化の仲間通信◎

◆川崎市民劇場 第336回例会

劇団青年座公演 見よ、飛行機の高く飛べるを

日程・会場

さいわい市民劇場 2月12日(土)16:30 サンピアン川崎  
市民劇場なかはら 6日(月)18:00

7日(火)13:30 エポック中原

たま・あさお市民劇場 3日(水)18:30 多摩市民館  
作 永井愛/演出 黒岩亮/出演 安藤瞳・小暮智美・  
石母田史朗 ほか

明治の女子師範学校を舞台にした青春群像劇。モデルは婦人運動に一生をささげた市川房江。

問合せ・申込み さいわい市民劇場 044-244-7481

市民劇場なかはら 044-455-7950

たま・あさお市民劇場 044-911-6920

◆劇団埼玉 第98回公演 貧乏神物語

日程 2017年2月17日(金)14時

18日(土)12時・16時 19日(日)14時

会場 劇団アトリエ(上尾市日の出4-508-1 埼玉新  
都市交通・吉野原駅徒歩20分)

入場料 一般1500円(予約制・全席自由)小学生以下無料

作 御荘金吾/演出 堀越飛鳥/出演 森本拓治郎・  
初野純一・水村照江・長谷山良公 ほか

問合せ・申込み 050-3479-0481 FAX048-777-4430

HP: <http://gekidan-saigei.jimbo.com>

◆劇映画 母 小林多喜二の母の物語

日程・開始時刻 2月25日(土)~ 10:00 / 14:20

3月4日(土)~ 10:00 / 18:30

3月11日以降は問合せ

会場 横浜シネマリン(R16長者町5丁目交差点沿  
045-341-3180)

原作 三浦綾子/監督 山田火砂子/出演 寺島しの  
ぶ・塩谷瞬・趣里・山口馬木也・徳光和夫 ほか  
わだしは小説を書くことが、あんなにおっかないこと  
どとは思ってもみなかった。あの多喜二が小説を書いて  
殺されるなんて――

問合せ 現代ぷろだくしょん TEL 03-5332-3991

[gendaipro@gendaipro.com](mailto:gendaipro@gendaipro.com)

◆総文連、市民芸術祭(舞台部門)

日程 3月5日(日)午後1時30分。

会場 川崎市教育文化会館。

市内の文化団体が踊り、演奏など「和もの」で芸を競い合います。見応えあります。入場無料。

◆田楽座ライブ@葛飾シンフォニーヒルズ

日程 3月5日(日)1st 15:30 ~ 2nd 19:00 ~

会場 葛飾シンフォニーヒルズ アイリスホール(京  
成線青砥駅徒歩5分)

入場料 3,000円(全席自由) 3歳未満無料(当日  
500円増)

演目 ぶちあわせ太鼓・山のお囃子・とりさしまい・  
さんさ踊り ほか

問合せ 歌舞劇団田楽座 0265-78-3423

<http://www.dengakuza.com>

◆わらび座 川崎公演

奇想天外 歌舞音曲劇 げんない

日程 3月6日(月)18:00開演

会場 宮前市民館ホール(東急田園都市線宮前平駅徒歩8分)

入場料 全席指定3,500円 中学生以下2,000円

作・演出 横内謙介/作曲 深沢桂子/振付 ラッキ  
池田/出演 三重野葵 ほか

江戸時代の中頃、希代の天才・平賀源内は世界でも珍しい電気発生源エレキテルを完成させたものの、生み出す火花は何の役にも立たず、見せ物小屋でエレキテルショウを始めて稼ぐことに……

問合せ・申込み わらび座関東事務所 048-286-8730

◆第70回記念 日本アンデパンダン展

日程 3月22日(水)~4月3日(月) 10:00~  
18:00 (休館日 3月28日)

会場 国立新美術館1階展示室 1A・1B・1C・1D

入場料 一般・大学生700円 65歳以上・高校生400円 中学生以下・70歳以上・障害者と付き添い人1人 無料

主催 日本美術会/運営 実行委員会(03-5842-5665)

<http://www.nihonbijyutukai.com/>

◆たま憲法集会

日程 4月26日(水)18:00

会場 多摩市民館大ホール

参加費 500円

対談 池辺晋一郎(作曲家)×窪島誠一郎(戦没画学生慰霊美術館「無言館」館主)

問合せ 実行委員会 080-4059-1056(中村)

●会報編集部から

会員の皆さんの近況をお知らせください。順次会報で紹介します。また、皆さんの企画、参加するイベント情報をお知らせください。この欄に掲載します。

●世話人会事務局から

年が新しくなりましたので、2017年分の会費の納入をお願いします。

■文化の仲間ギャラリー■

小野寺 晃②

